



ロボット支援腹腔鏡下 根治的前立腺全摘除術の導入

泌尿器科部長

土屋 邦彦

前立腺がんに対する根治手術は、2012年にロボット支援下手術が保険適応になってから急速に普及し、現在は本術式が標準的な手術法となっています。この度、当院でもダヴィンチ手術システムと呼ばれる機器を使用し、今年6月にロボット支援腹腔鏡下根治的前立腺全摘除術を開始しました。従来の二次元画像による腹腔鏡下手術と異なり、三次元の空間解析を有するため緻密な組織構築を認識でき（3D画像、奥行きがわかる）、また自由度の高い鉗子により微細で正確な操作が出来るようになったため（縫う・糸を縛るといった手技が容易）、より質の高い低侵襲的手術が可能になります。

手術は5～15ミリ径の切開創よりカメラや鉗子類を挿入し、前立腺と精嚢を摘除後に尿道と膀胱を吻合するもので、リンパ節郭清を行う場合と行わない場合があります。手術時間は約3～6時間で、手術後6日目に尿道カテーテルを抜去し、数日排尿状態をみて特に問題なければ退院となります。入院期間は約11日間の予定です。

術後にみられる尿失禁は、従来の手術法に比べて回復が早くこの術式の利点の一つといえます。尿失禁改善に役立つ骨盤底筋体操を術前より指導し始めてもらうことで、さらに尿失禁の早い回復を図ります。

今年4月からは新たに腎癌に対するロボット支援腹腔鏡下腎全摘除術が保険適応になることが決まりました。外科や産婦人科など他科の手術もロボット支援下手術の適応が拡大されており、今後ますますロボット支援下手術が増えていくことになると思われます。